

ニティ・カレッジの一年コースの卒業生より三〇パーセント高く、博士号を持つ新卒はふつうの学士より五〇パーセント上まわる初任給をとる。

日本とはちがって、就職先と給料に関して男女の違いはほとんどない。学生のほぼ半数は女性であり、大学でも各学部には散らばっている。カナダの法律は性に基づく就職上の差別を禁じているし、女性には官庁、企業、教育界、ジャーナリズムなどあらゆる仕事で男性と対等に競い合っている。経済専攻の女性学士はエコノミストとしての働きを期待されるのであって、秘書や受付になるのではない。資格が同じであれば、女性は男性とほぼ同額の俸給をもらう。平均の数字は男性の方がやや高いが、これは技術関係や経営管理、法律、医科歯科など収入のよい分野により男性卒業生が多いからに過ぎない。しかもこの状況は急速に変わりつつある。

(6)

教育は州の管轄下にあり、各州はそれぞれ独自の高校卒業資格に関する規定を決めている。高校卒業に要する期間は、ところによって十一年、十二年、十三年と異なる。二十年前にはどの州でも高等学校修了時に全州的な大学入学試験を受けることになっていた。ふつう大学の教授陣が出题し、教授および高校の教官による委員会が採点するものであった。その後、この種の入試は廃止され、今では大学入学は高校側の評価に基づいている。しかし各大学は独自の基準を設けること

ができる。ある大学は入学希望者の平均点がC(可)であれば入学を許可する。ある大学は一定の科目については平均B(良)を要求するであろう。さらに高校卒業さえできればいいという大学もある。

大学における課程がさまざまであるように、当然ながら入学についてもむづかしい大学、やさしい大学の差はでてくる。学生のはほとんどは、自分に適した講座があれば自宅に近い大学を選ぶ。ところが主として経費の点でしかたなく自宅から通う少数を除いて、多くの学生はアパートや下宿、または学内の寮に住む方を望む。学内においては学生は一人前の成人とみなされ、大学側は法律を犯したり他人に迷惑をかけたたりしない限り、教室外での学生の行動に一切干渉しない。また大学当局は学生の政治的社会的活動に對しても寛容である。政治的な集まりや討論は学生生活の重要な一面であるとされる。

ふつう学生は入学当初から、優等課程を選ぶか普通コースにするかの選択をせまられる。前者は通常科目が多く(多くの大学では期間が通常より一年長い)、高い平均点が要求される。どちらをとるにしても、学生は一つないし二つの専門分野を決めなければならない。が日本の多くの場合に較べると、それ以外の分野での選択の自由はずっと広いようである。典型的な学生の場合、学期内または年内に五つの科目をとる。大抵の科目は毎週三時間の講義、ゼミナール、集団討義の組合わせからなっている。どの科目

がでできる。ある大学は入学希望者の平均点がC(可)であれば入学を許可する。ある大学は一定の科目については平均B(良)を要求するであろう。さらに高校卒業さえできればいいという大学もある。大学における課程がさまざまであるように、当然ながら入学についてもむづかしい大学、やさしい大学の差はでてくる。学生のはほとんどは、自分に適した講座があれば自宅に近い大学を選ぶ。ところが主として経費の点でしかたなく自宅から通う少数を除いて、多くの学生はアパートや下宿、または学内の寮に住む方を望む。学内においては学生は一人前の成人とみなされ、大学側は法律を犯したり他人に迷惑をかけたたりしない限り、教室外での学生の行動に一切干渉しない。また大学当局は学生の政治的社会的活動に對しても寛容である。政治的な集まりや討論は学生生活の重要な一面であるとされる。

で科目を選び、教科書を買ひ、それから余った時間はゆつくり過ごしました。二週目から授業が始まりました。五科目、週に十五時間の授業。毎回宿題の出る科目もあり、なかなかたいへんでした。最初の祝日は感謝祭。カナダの感謝祭はアメリカよりずっと早く、十月のはじめごろです。友だちの家へ招かれ、初めて七面鳥を食べました。

そして冬休み。寮を出なくてはならぬので、行く先に困っていた所、友だちに誘われ、カルガリーに行きました。バスで二十時間もゆられて疲れたけれども、行くだけの価値はありました。途中でロッキー山脈をこえ、バンフも通り過ぎました。カルガリーではクリスマス、大みそか、元日など、数々の食事を楽しんだり、初めてのクロス・カントリー・スキーをしたり。

二月の下旬に二日間の休み (reading break) があり、土・日と合わせて四日間になったので、モーターハウスを利用してポートランドへ四泊五日の旅をしました。車の中にベッド、冷蔵庫、コンロ、トイレ、シャワーなどがすべてついていて、どこにでも停めて食事を作ったり、寝ることができます。暖房がついているので真冬の旅でもちっとも寒くありませんでした。二学期の授業は四月末で終り、その後四か月以上もある夏休みになりました。私は五、六月にインターセッション、七、八月にサマーセッション(夏期講座)があったので、夏休みはビクトリアで過ごしました。

九月から二年生になり、授業は一段とむずかしくなりました。十二月まで宿題が山のようにあり、毎日勉強に追われていましたので、クリスマスの試験の後にはっきり休養しました。

大学の授業は四か月でひとくきりになつていて、最初の授業でカリキュラムをもらうとその通りにほとんど進んでいきます。その間に一、二回の中間テスト、



最後に期末テストがあり、配点も中間が一〇〇四〇パーセント、期末が五〇パーセントで、合計で五〇パーセント以上とれないとほとんどの科目ですぐF(不可)がつきます。きびしいけれど、言われたことを全部やれば、落ちることはないと思います。ただ全科目同じように宿題が出たりするので、時間の配分をうまくしないと全科目に手が回りません。

このような状態なのでいつも宿題に追われています。卒業まであと三年程、これからもがんばっていきたくと思っています。

(ビクトリア大学)